



ごとう整骨院News

<http://www.goto-hand.com/>

当院キャラクター「ほねボーヤ」

Vol. 19 6月号

認知症について

今月は患者さんからのリクエストにお答えして、認知症についてです。

認知症とは、いったん発達した知的機能が低下して社会生活や職業生活に支障をきたす状態を表しています。

認知症の診断基準とは

A 以下の2項目からなる

認知障害が認められること

1 記憶障害（新しい情報

を学習したり、かつ

学習した情報を想起

たりする能力の障

害）

2 以下のうち一つある

いは複数の認知障害が

認められること

a 失語（言語障害）

b 失行（運動機能は損な

われていないにもかか

わらず、動作を遂行す

ることができない）

c 失認（感覚機能は損な

われていないにもかか

わらず、対象を認識あ

るいは同定することが

できない）

d 実行機能（計画を立て

る、組織立てる、順序

立てる、抽象化する）
の障害

B 上記のA1、A2の記

憶障害、認知障害によ

り社会生活上あるいは

職業上あきらかに支

障をきたしており、以

前の水準から著しく低

下していること

C 上記の記憶障害、認

知障害はせん妄の経過

中のみに起こるもので

はないこと

認知症の主な症状は

抽象思考の障害、判断の障

害、失行、失認、失語、実

行機能障害などです。

その他みられる症状として

は妄想、幻覚、不安、焦燥

せん妄、睡眠障害、多弁、

多動、依存、異食、過食、

徘徊、不潔、暴力などがあ

げられます。

認知症に占める割合の最も

大きいものは、アルツハイマー

病による認知症であり最近

の調査では認知症の60%

を占めているという報告も

あります。次いで多いのが

脳の血管の障害によって二

次的に神経細胞が障害されるために起こる脳血管性認知症です。認知症全体の15%程度の割合を占めます。この二つを予防していくことが認知症の予防につながって行きます。

認知症予防・支援は中年期からの問題です。年齢が75歳を超えると急激に発症率が高まることを考えると、認知症予防・支援にもっとも真剣に取り組まなくてはならないのは、65歳から80歳までの人たちです。

有酸素運動では、ウォーキングや水泳、体操などが効果的。また、認知機能を維持するため適している活動は、料理、パソコン、旅行、園芸などである。たとえば、料理であれば今まで作ったことのない料理のレシピを考え、試作する。パソコンであれば、ホームページを作成したりする等が良いです。（来月に続く）

（院長 後藤 健司）

ごとう整骨院

携帯サイト



診療時間

9:00 ~ 12:30

15:00 ~ 20:00

土曜日は午前中のみ

日曜・祝祭日は休診

自律神経リラクゼーション療法は当院の

独自療法です。他院では受けられません!!!

今月院長は15・29（水）お休みです。

048-942-0510

診療時間のみ受付です